

トキワ荘文化の原点「なかよし」の記念碑と 「加藤謙一文庫」弘前大学付属図書館

トキワ荘にマンガ家たちを結びつけた雑誌『漫画少年』の創刊者・加藤謙一は、手塚治虫が「美の父親」と呼ばれている存在だった。平成22年に出身校・弘前大学付属図書館に開設された「加藤謙一文庫」と「なかよし」の記念碑を紹介する。

編集者として多くの作家やマンガ家を育てた加藤謙一（1896-1975）は、1917年、青森・弘前市内の小学校3年生担任時、ガリ版刷りで子どもたちの作品に自作の童話や物語を加えた「なかよし」というクラス雑誌を作っ

戦前・戦後を通じて「少年の健全育成」を目的とした少年向け雑誌の編集に一生を捧げ、多くの著名なマンガ家を育て、今日のマンガ文化の礎を築いた功績を讃えて建てられた。「子どもは国の宝だ 子どもたちを明るく健やかに育てる仕事に身を捧げたい」と「なかよし」の記念碑に刻まれている。



教育学部の標へ向かう道にある



弘前大学附属図書館

青森県弘前市文京町1
0172-39-3162

休館日 祝日・休日
夏期一斉休業期、年末年始

開館時間は
図書館HPでご確認ください



<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/collection/katokenichi/>

たところ市販の雑誌より喜ばれ「これを全国の子どものために喜びに拡大できないか」と心に抱く。1918年に職を辞して上京、講談社に入社。翌年「少年倶楽部」の編集長に抜擢

され、田河水泡のマンガなどに力を入れるなど次々と新機軸を打ち出し、発行部数45万部に発展させた。戦後は、雑誌『野球少年』に参画後、自ら学童社を興し雑誌『漫画少年』を創刊。そこでも井上一雄『バット君』、手塚の『ジャングル大帝』とヒットを出しな



大学構内附属図書館2階にある1920～50年代の少年雑誌の変遷を俯瞰する貴重な368冊の文庫。

から、投稿マンガを積極的に受け付けた。選者であった手塚治虫、寺田ヒロオをはじめ、藤子・F・不二雄、藤子不二雄④、赤塚不二夫、石ノ森章太郎ら入選常連者たちの集まりがトキワ荘のマンガ家たちであり、「なかよし」記念碑に刻まれた想いを継ぐ者なのだ。

※この画像は当該ページに限って「トキワ荘通り協働プロジェクト協議会」が利用を許諾したものです。「トキワ荘通り協働プロジェクト協議会」の許可なく複製、転用、販売、その他の二次利用行為を行うことはできません。

[問合せ先]弘前大学研究推進部学術情報課

E-mail: jm3152@hirosaki-u.ac.jp